

令和3年（2021年）8月の大雨特定災害対策本部会議（第4回）
議事録

日時：令和3年8月16日11:30～12:03

場所：中央合同庁舎8号館3階 災害対策本部会議室

出席者：【本部長】 防災担当大臣
【副本部長】 副大臣（防災担当）
大臣政務官（防災担当）
内閣官房 危機管理監
【本部員】 内閣府 政策統括官（防災担当）
内閣府 大臣官房審議官（防災担当）
内閣府 男女共同参画局長
警察庁 警備局長
総務省 大臣官房長
総務省 総合通信基盤局長
総務省 自治行政局公務員部長
消防庁 次長
消防庁 審議官
財務省 大臣官房審議官（危機管理担当）
(代理：大臣官房総合政策課政策推進室長)
文部科学省 大臣官房文教施設企画・防災部長
(代理：大臣官房文教施設企画・防災部
参事官（施設防災担当）付
災害対策企画官)
厚生労働省 大臣官房危機管理・医務技術総括審議官
農林水産省 大臣官房危機管理・政策立案総括審議官
経済産業省 大臣官房技術総括・保安審議官
国土交通省 水管理・国土保全局長
国土交通省 大臣官房危機管理・運輸安全政策審議官
国土地理院 参事官
(代理：総括測量・防災官)
気象庁 気象防災監
海上保安庁 海上保安監
(代理：総務部参事官)
環境省 環境再生・資源循環局長
防衛省 統合幕僚監部総括官

1. 開会（内閣府政策統括官（防災担当）により議事次第に沿って議事進行）

2. 被害状況等の報告について

<気象庁>

資料に沿って説明

- ・雨は一旦小康状態になっていたが、九州では再度降り始めている。本日 16 日は九州を中心に、明日は西日本から北日本の広い範囲にかけて大雨になるのではないかと考えている。これまでの記録な大雨の影響で比較的少ない雨量でも土砂災害や洪水の被害等発生する可能性がある。このあともまだ雨が長く見込みで警戒が必要。
- ・17 日の夜 21 時の予想天気図では、昨夜東シナ海で発生した低気圧が明日には日本海に入ってくる。前線と低気圧に向かって大量の水蒸気が流れ込み再び活発になってくる。前線は 20 日ごろにかけて日本付近に停滞するという見込み。
- ・大雨の状況については、既に 1,000 ミリを超えるところもあり、広い範囲で 500 ミリ、600 ミリという記録的な雨を降らしている。明日の 6 時までの 24 時間予想では、九州を中心に 200 ミリ、250 ミリといった雨を予想している。そのあと 18 日の朝までの 24 時間については、西日本から北日本にかけて広い範囲で多いところで 200 ミリから 300 ミリの降雨を予想している。
- ・警報の可能性について、18 日、19 日まで警報級の可能性があり、後半は西日本が中心になってくる。東北地方について宮城県、福島県で警報が出ている状況で、少しの雨でも警報が続くという予想をしている。今後、西日本から北日本において記録的な大雨になっているところで土砂災害の危険度が高まっている、普段よりも増水している河川がある。土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に厳重な警戒をいただきたい。特に今後激しい雨が降り続く、例えば線状降水帯が発生してこれまでに多量の雨が降ったところに再び降るような場合には土砂災害が多発するといったことも考えられる。竜巻や、激しい突風にも気を付けていただきたい。

（資料 2 枚目）

- ・7 時までの 24 時間の雨の実況について、小康状態ということもあって記録が並ぶという状況にはなっていない。降り始めからの総雨量は、例年の 8 月の 1 か月分の 2 倍、3 倍の量の雨がすでに降っているという状況。

（資料 3 枚目）

- ・20 日ごろにかけて前線が本州付近に停滞し、その後、太平洋高気圧に押されて次第に解消する見込み。
- ・記録的な雨となったところに再度大雨となるおそれがあるといった危機感を伝えていくことが重要。気象庁としては、本日 11 時に報道機関の協力を得て

国民の皆さまに伝えるための共同の取材を実施。

- ・今後も、各地の气象台から J E T T の派遣、常駐やホットライン等を通じ、適時に自治体をしっかりと支援していきたい。

3. 被害状況及び各省庁の対応状況等について

<内閣府政策統括官（防災担当）>

- ・人的被害については、死者 4 名、以下、調査中死者、心肺停止、行方不明、安否不明までの総数が 15 名であり、昨日から増えている。
- ・建物の被害は全壊 3 棟、半壊 6 棟。床上浸水 828 棟、床下浸水 3,230 棟であるが、佐賀の浸水被害などはこれから数が積み上がっていくと考えている。
- ・各省庁の対応としては、6,000 名を超える態勢。
- ・河川については、15 水系、36 河川で氾濫が認められ、土砂災害 62 件が発生している。
- ・ライフラインについては、停電が 130 戸、断水が 1,278 戸。応急給水作業を実施中。通信については、携帯電話の一部エリアで支障が認められている。
- ・交通関係では、高速道路、直轄国道、鉄道のいくつかの路線で被害が生じているところ。
- ・避難状況については、朝 5 時の時点で 2,383 名が避難。昨日の多いときは 14,000 名を超えていたが、今日から仕事に戻る方や、昨日からの雨の小康状態もあって数が減っている。
- ・今後、少しの雨で被害が生じるおそれがあるので、気象の状況をみながら迅速な避難指示や緊急安全確保等の措置をとっていただき、避難所に身を寄せるべき方はできるだけ早めに、引き続き避難所に留まり続けることも含めてしっかりやっていただく必要がある。気象庁、消防庁等におかれては、現場の自治体とよく連絡を取りながら御指導をお願いする。

<警察庁>

資料に沿って説明

- ・人的被害について、掲載資料の⑦～⑩が新たな通報があったものである。
- ・⑦、⑨、⑩は、海岸沿いで御遺体が発見された。⑧は勤務先から帰らないという事で安否不明に計上している。
- ・警察の活動について、現在のところ、128 名について救助をしている。捜索活動は引き続き行っている。部隊については、引き続き約 120 名が福岡に待機をしている。
- ・パトカーによるパトロール活動を実施し、被災者や避難所における不安の解消に努めている。

<消防庁>

- ・広島県東広島市の田んぼを見に行った1人が帰らない事案については、現在捜索活動中。
- ・福岡県添田町の1人の救出活動については、救出済み。
- ・長崎県雲仙市の住宅2棟全壊の件については、現在救出活動中。
- ・熊本県人吉市の球磨川で1人が流され行方不明である件については、現在捜索活動中であるが、警察庁から何名か心肺停止者や死体の報告があったことから、そういった方々の同定を地元で進めているところ。
- ・長野県木曾郡王滝村の大雨による14名孤立については、人的被害はないが、長野県ヘリコプターにより14名全員の避難活動を現在実施中。食料などは5日分確保されており、ライフラインも問題はない。
- ・佐賀県武雄市の六角川流域での浸水による孤立については、取り残された方はいないことを消防・自衛隊・警察官により確認。
- ・消防ヘリコプターについては、長野県ヘリコプターにより孤立集落の救出のほか、現在全国で46機のヘリコプターが待機中。
- ・昨日同会議における棚橋大臣からの指示を踏まえ、都道府県を經由して市町村に対し、一時的に雨の弱まった地域においても厳重な警戒、適時的確な避難情報の発令や継続の必要性に留意の上、対応するように文書で要請を行ったところ。

<海上保安庁>

資料に沿って説明

- ・巡視船、航空機による即応態勢を維持。昨日以来、新たな情報には接していない。なお、大雨による河川から海域への流出物等に関する情報について、随時関係先に発信している。

<防衛省>

資料に沿って説明

- ・自衛隊の態勢としては、引き続き連絡員を自治体等に派遣するとともに、部隊要員を待機させるなど、厳重な警戒態勢をとっている。
- ・災害派遣の活動状況については、長崎県の雲仙市において引き続き本日も約40名態勢、重機2両、救助犬3頭を投入し、救助活動を継続している。
- ・佐賀県六角川氾濫の関係では、本日は水もかなり引き、ボートによる救助のニーズもなくなっており、垂直避難者に対する声かけを中心に自治体職員と連携しながら実施している。

<国土交通省>

- ・一昨日の 19 時時点においては、最大で 58 平方キロの浸水被害があったが、それについては順次河川水位が低下し、自然排水している。さらに 60 箇所におよぶポンプ、さらに 12 台の排水ポンプ車で排水活動を進めていた。
- ・昨日 16 時点では、順天堂病院が浸水状態だったが、今朝 9 時時点ですべての浸水が解消できた。当初の予定よりは早く解消ができた。今後の建物の被害状況、復旧状況の確認が早くできるよう対処できた。
- ・周辺は引き続き土砂災害警戒情報が出ているので、適切な避難を住民には心がけていただきたい。
- ・全体の河川の被害に関して、大きな施設被害は起きていない。
- ・施設被害としては、県管理河川江の川水系多治比川で堤防決壊があったが、応急復旧を実施しているところ。また、事前に報告済みであるが、広島県の入野川については応急対策済み。この次のまた雨が降るため、施設被害があれば応急的な復旧をして、来るべき次の雨に備えているところ。
- ・長野県岡岡谷市の土砂災害について、残念ながら、小さなお子さんを含む御家族のうち 3 名が亡くなられた。避難指示が出ていなかったという点について、国交省としては、気象台と都道府県の砂防担当部局が共同で土砂災害警戒情報を発表している。この発表にあわせて避難指示を出していただくことが基本である旨を市町村に周知いただくよう、都道府県の砂防担当部局に対して災害対策基本法改正時をお願いしていたところである。7 月 3 日の熱海の事例も含め、問題意識を持っている。本今朝、国交本省から都道府県の砂防担当部局に対して、「今後來るべき雨に備えて、土砂災害警戒情報が発表されている場合には、雨の降り方に関わらず土砂災害がいつ発生してもおかしくない状況であることを改めて市町村に周知いただきたい」という徹底を促したところ。
- ・国交省は砂防部局、気象台からは市町村に直接言っていただくとともに、県の危機管理部局と連携することが重要と考えている。内閣府・消防庁とも協力し、来るべき雨に備えて、徹底して協力することが重要と考えている。国交省としては、しっかりと都道府県の砂防担当部局に助言してまいりたい。
- ・公共交通関係では、主に鉄道で被害が発生している。現在のところ 6 事業者 8 路線 9 箇所を被害を確認している。昨日以降新たに、J R 西日本山陽線、松浦鉄道の 2 箇所、2 路線で施設被害を確認している。そのほか、高山線等 5 路線では、線路冠水等あったが、復旧をしたところ。青い×が現時点で復旧が確認されているところ。赤い×が、現時点で被害が発生しているところとなっている。現時点でも現場の点検ができていないところがあるので、今後、被害箇所は増える可能性がある。
- ・運行状況については、本今朝 8 時時点では九州・中国地方を中心に 13 事業者 33 路線で運転を見合わせている。昨日に比べれば見合わせの本数は減少して

いる。

- ・航空について、空港施設に被害はなし。昨日は 28 便に欠航があったが、本日は欠航便は無し。
- ・物流について、支援物資の供給は県で円滑に行われていると聞いているが、リエゾンを通じて情報収集を行うとともに、各県のトラック協会に態勢の強化・確保を依頼しているところ。

<総務省>

資料に沿って説明

- ・通信関係の被害状況については、携帯電話については、NTTドコモは広島県安芸太田町及び福岡県八女市の一部地域において支障が出ており、現在復旧対応を行っているところ。
- ・KDDI、ソフトバンクにおいても、広島県安芸太田町の一部地域において支障が出ているところ。
- ・昨日時点で一部エリア支障があったNTTドコモの福岡県朝倉市及び東峰村、KDDIの広島県広島市安佐北区及び安芸高田市、島根県江津市については復旧済み。
- ・固定電話については、NTTコミュニケーションズの専用線サービスの支障について、復旧しているところ。
- ・通信機器の貸与状況については、今回の報告より被災自治体へのWi-Fiアクセスポイントが増加している。それに併せて充電器の貸し出しも行われている。被災者支援についてもこうした形で始まっているところ。

<厚生労働省>

資料に沿って説明

- ・医療施設の被害状況、特に佐賀県の順天堂病院について、資料では被害ありとなっているが、現時点で浸水、断水、周辺道路の冠水のいずれも解消しており、車両等による陸路での病院への移動が可能となっている。昨日不足していた医療機器及び医薬品については佐賀県から供給済み。
- ・DMATは東京都1隊、佐賀県1隊が、いずれも本部活動中。
- ・水道の被害状況については、長野県、広島県、長崎県、熊本県の13事業者（うち7事業者は長野県の事業者）において水道管の破損等により1,278戸が断水中。

(質疑等)

<消防庁>

- ・岡谷市の避難情報の発令について、消防庁からも今回の件については助言して

いる。また、今回の前線による大雨も含め、政府全体での警戒会議が開かれるたびに、消防庁から都道府県を經由して市町村に対し、警戒情報を適時発令するように助言してきている。その助言文書の中で、土砂災害警戒情報が発表された場合には、ただちに避難指示を発令することが基本である旨を明確に書いている。今後とも引き続き、今回の件を踏まえて、市町村が適切に避難指示や緊急安全確保を発令できるよう助言していく。

<内閣府調査チーム>

- ・佐賀県の現地の状況について、浸水エリアの水はかなり引いている。一方、人的被害がなかったところも含めて土砂災害が10か所以上あり、最大で幅50～60m、長さ400mくらいにわたって土砂が崩れ落ちている現場もある。これからまた雨も降ることから、引き続き、特に土砂災害への注意が必要。
- ・今朝9時からの県の本部において、東京キー局の報道で、順天堂病院の患者を避難させるべく自衛隊が活動しているというニュアンスにとれるものがあつたが、誤報であり、病院の患者はすべて垂直避難で対応し、自衛隊が救助を行っていたのは周辺の住民であるとの報告があつた。

<赤澤副大臣>

- ・私自身も報道をみたから、実際はその報道とは異なり、患者は垂直避難で対応したことを確認でき、大変良かった。
- ・佐賀県ではまだ400名近い方が避難しているが、避難所のコロナ対策に気をつけるよう、改めて関係の都道府県や市町村に声をかけていただきたい。また、避難所のコロナ対策の様子をよく見てきていただきたい。

(報道関係者入室)

4. 棚橋特定災害対策本部長発言

<棚橋特定災害対策本部長>

- ・今回の大雨により、今朝6時時点で、お亡くなりになられた方が4名、さらに、お亡くなりになられた方で災害との関連を調査中の方が4名、行方不明の方が4名、また安否不明の方もいらっしゃるとの人的被害が報告されている。また、多数の住家被害も報告されている。
- ・お亡くなりになられた方に改めて心からお悔やみを申し上げるとともに、被災されたすべての方々にお見舞い申し上げます。
- ・本部員の皆様には、引き続き、地方自治体や関係機関と緊密に連携し、被害状況を迅速に把握するとともに、二次災害に十分注意しながら、人命第一の災害応急対策と早期のライフラインの復旧に全力で取り組むようお願いする。

- ・今日は九州で、明日は西日本から北日本にわたり、大雨となるところがある見込み。前線は20日頃にかけて日本付近に停滞する見込みとなっており、予断を許さない状況が続いている。
- ・本部員の皆様には、長丁場となるが、引き続き、万全の体制を確保し、人命を第一に、先手先手で避難支援等の事前対策に取り組んでください。
- ・地方自治体の首長の皆様におかれては、空振りを恐れず、避難指示や緊急安全確保等の避難情報を適切に出していただくよう、お願いします。
- ・繰り返しになるが、地方自治体の首長の皆様は、空振りを恐れずに、避難指示や緊急避難情報等を適切に出していただくよう強くお願いします。また、新型コロナウイルス対策についても、引き続き徹底をお願いします。
- ・国民の皆様におかれては、河川や水路など危険な場所には近づかず、少しでも危険を感じたら躊躇せずに避難するなど、早め早めに、命を守る行動をとってください。また、夜間の避難は大変危険。明るいうちに安全な場所に避難してください。家族や知人への積極的な声かけもお願いします。
- ・一時的に雨が弱まったとしても、災害のおそれは続いている。特に土砂災害については、人的被害がなかった地点においても発生が報告されている。避難情報や気象情報に留意し、避難を継続したり、再度避難するなど、警戒感を緩めないよう強くお願いします。
- ・この点再度繰り返すが、国民の皆様は一時的に雨が弱まったとしても災害のおそれは続いている。避難情報や気象情報に留意し、避難を継続したり、再度避難するなど、警戒感を緩めないよう強くお願いします。

(報道関係者退室)

5. 閉会